

北畠顕家の 上洛遠征路

花將軍、駆ける

顕家卿

北畠 顕家 (きたばたけ あきいえ)

文保2 (1318) 年、『神皇正統記』を著した北畠親房の長男として京に生まれる。年少の頃から有能ぶりを発揮し、さまざまな官職を歴任。16歳で陸奥守を命じられると、後醍醐天皇の皇子・義良親王を奉じ、多賀国府で奥羽地方を治める。建武2 (1335) 年には鎮守府將軍となり、反旗を翻した足利尊氏を追撃するため上洛、翌年に尊氏を九州へと敗走させる。延元2/建武4 (1337) 年、南朝の勢力を立て直すため国府を靈山へ移す。同年、後醍醐天皇の要請で再度、足利討伐の兵を挙げて各地を転戦するが、翌年和泉国 (大阪府) 石津で戦死。享年21歳。後醍醐天皇と南朝に尽くした生涯の幕を閉じる。

第1次西上洛

1335~1336年 (建武2~延元)

第2次西上洛

1337~1338年 (延元2~3年)

1335年12月22日

多賀城出発

顕家卿18歳

多賀城

靈山

1337年8月11日

靈山出発

顕家卿20歳

南北朝時代とは

1336年から約60年間にわたって、朝廷が2つ存在した時代をいう。

1333年、後醍醐天皇は、鎌倉幕府に不満を持つ武士を味方に付けて倒幕に成功すると、公家と武家の直接支配を目指して「建武の新政」を開始する。しかし恩賞に不公平があり、政局の混乱を招いたため、足利尊氏が反旗を翻すと不満を持つ武士があとに続いた。尊氏が後醍醐天皇と対立する光明天皇を立て (北朝)、室町幕府を開くと、後醍醐天皇は吉野へ移り、皇統の正当性を主張した (南朝)。

1336年1月30日

新田義貞、楠木正成とともに
尊氏軍を破る

1336年1月12日

顕家軍は旧で
琵琶湖を渡る

1338年1月28日

足利軍を
打ち破る

1336年1月16日

園城寺を攻め
足利方を破る

1336年2月11日

再度入京を目指す
尊氏軍を破る

尊氏は海路で九州へ敗走

1338年5月22日

堺浦・石津に
転戦して戦死

顕家卿21歳

吉野

青野原

熱田

伊勢

1338年2月

長期行軍で
兵力が減り疲弊し、
京攻撃を諦め
伊勢に赴く

1338年1月12日

橋本に到着

宇都宮

小山

1337年12月8日

足利方の小山城を
陥落させる

13日足利方の大軍を
利根川の戦いで破る

1336年1月2日

顕家軍、鎌倉の
足利方を攻め、占領

1337年12月23日

鎌倉に攻め入り
25日斯波家長を討つ

翌年1月2日鎌倉を出発

鎌倉